

③ 保障措置に関する事業者の自主的改善活動

# JAEAにおける保障措置業務改善活動

－ SGCAP（保障措置是正処置プログラム）の取組み－

2025年4月22日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括本部

核セキュリティ管理部

➤ 日本原子力研究開発機構（JAEA）は、我が国における原子力に関する総合的な研究開発機関であり、以下のような特徴を有している。

- 多様なタイプの原子力関連施設を保有・運用

（試験用研究炉、再処理施設、MOX燃料製造施設 等）

- 多様な形態の核物質を数多く保有

- 建設段階から廃止措置段階まで、幅広いライフサイクルの施設を運用

- 各拠点の施設規模や機能に応じて、作業員数に差がある



各施設の特徴に応じた適切な保障措置対応を行い、国際約束および国内法令に基づく要求事項に確実に応えるためには、定常的に業務の品質向上を図る仕組みが必要。

## SGCAP（保障措置是正処置プログラム）

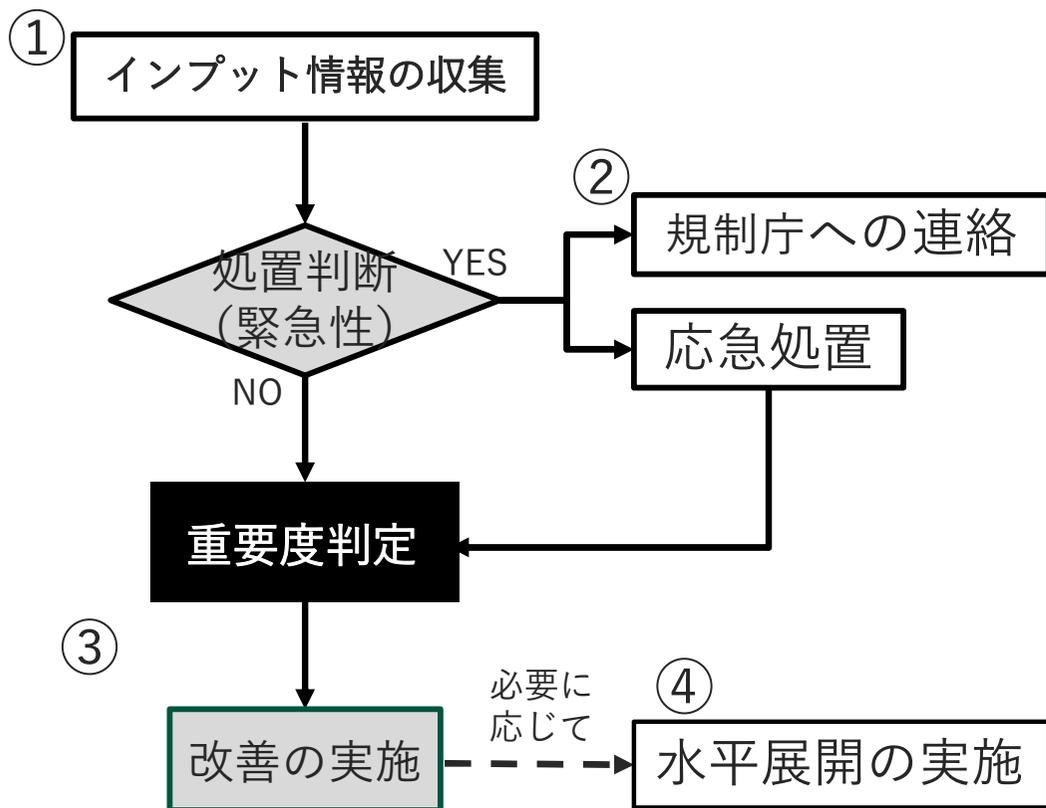
保障措置対応業務における不適切事案や改善に繋がる気づき等を収集し、是正処置・情報共有を通じて再発防止・未然防止を図る仕組み。

## SGCAP導入の目的と効果

- 保安・PP分野で活用されているCAPの手法を保障措置対応業務の特徴を加味して展開  
→ 保障措置対応業務全体の品質向上を目指す
- 気づきを把握・抽出する仕組みの構築  
→ 従業員の業務改善に対する感受性の向上
- 気づきを改善活動へ反映  
→ 問題発生リスク低減
- 継続的な改善サイクルの構築  
→ 保障措置対応業務の信頼性向上に貢献



SGCAPの取組みを通じて、従業員が保障措置の重要性を理解し、意識を高めていくことを目指す。

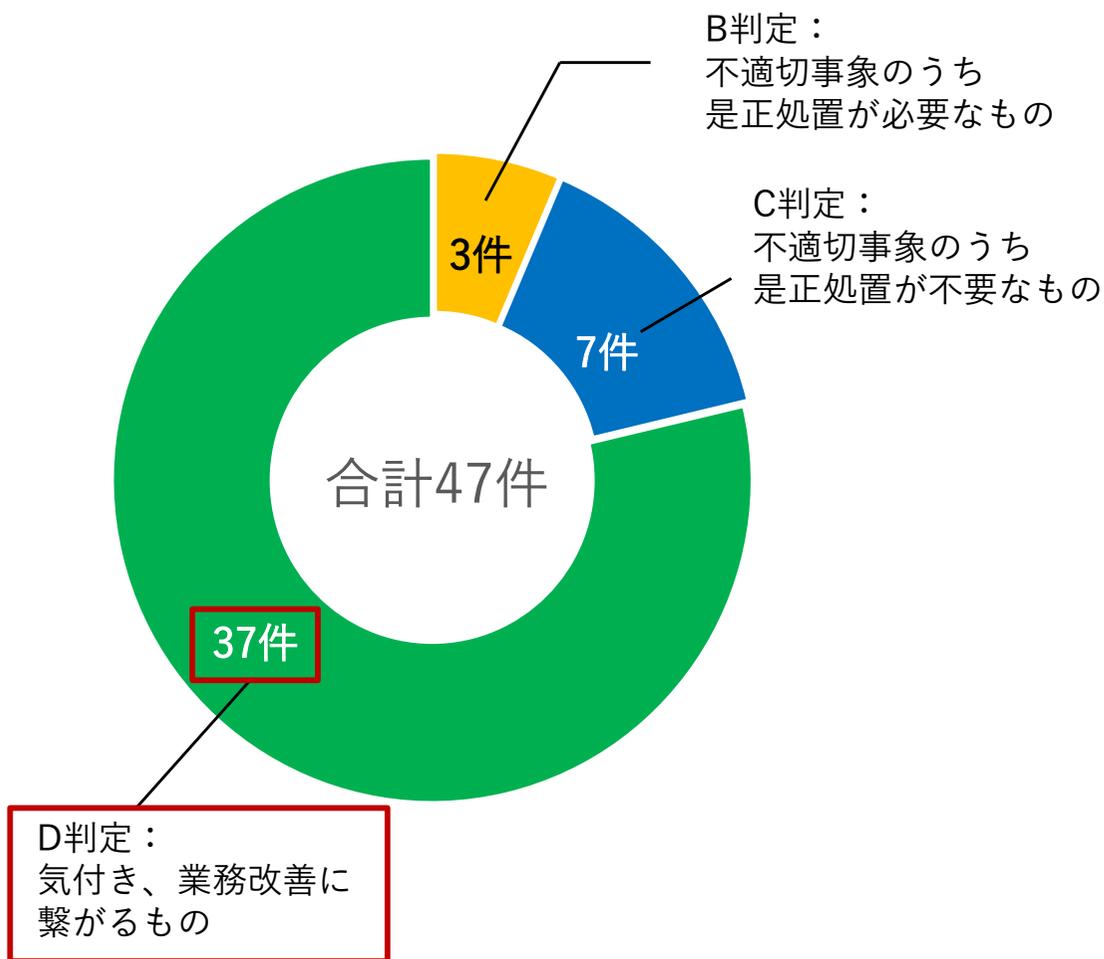


SGCAPのフロー概要図

- ① 不適切事案や改善に係る気づき等を、インプット情報として収集
- ② 緊急性の高い事項は、速やかに規制庁への連絡や応急対応を実施
- ③ 保障措置への影響度を基に重要度判定を実施し、重要度に応じた是正措置を展開
- ④ 他拠点においてもリスクが想定される事項は、水平展開により情報共有と対応を推進

## 【運用面での特徴】

- 本部において雛形となる標準要領を策定し、各拠点はこれに基づき実施要領を整備。
- 保障措置に関する有識者が不足する拠点については、本部が技術・運用面で支援を実施。



インプット情報の判定内訳  
(2024年度)

- 重要度判定はA～D判定の4段階で評価され、各拠点のCAP会議において審議、決定される。
- B判定となった3件はいずれも保障措置対応に一定の影響を及ぼす可能性があったため、**迅速に是正処置を講じるとともに、同様のリスクを他拠点でも排除すべく、水平展開（是正内容の共有と未然防止処置の実施）**を行った。
- インプット情報のうち、半数以上がD判定（**気づき、業務改善に繋がるもの**）であり、**不適切事案に発展する前に、自主的な業務改善が実施されている。**

- SGCAPは、保障措置に関する**不適切事案や業務改善に係る気づき等を収集し、是正処置や水平展開**を実施することで、情報共有を通じた**再発防止および未然防止**を図るための仕組みである。
- 収集された情報は重要度に応じて適切に対応され、**現場主導による改善活動**を通じて、**トラブルの未然防止や業務品質の向上**が図られている。
- SGCAPの実効性をさらに高めるため、制度の**定期的な見直しと継続的な改善**を通じて、より成熟した**実効性のある仕組みへと発展**させていく。
- また、従業員への意識醸成も含め、SGCAPの運用等を通じて保障措置対応業務の実効性を高めるとともに、安全（Safety）、セキュリティ（Security）との連携を図り、**3Sの調和ある活動**を目指していく。